「五輪峠詩群」① 賢治の足跡マップ 大正 13 年 3 月 24 日~25 日



旧五輪街道 赤 五輪街道 緑 旧盛街道 点線 県道8号米里―水沢線 橙 国道107号 青 <五輪街道は現在**通行止め**です。多分4月には開通するでしょう。> 赤線は宮沢賢治が大正13年3月24日釜石線鱒沢駅に降りてから歩いた道です。菊慶旅館に

又は「賢治街道を歩く会」山崎(10090-5597-2340)にご連絡ください。

宮沢賢治の「五輪峠」詩群

1「五輪峠」

五輪峠と名づけしは、

地輪水輪また火風、

(巌のむらと雪の松)

峠五つの故ならず

ひかりうづまく黒の雲、

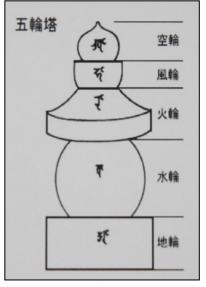
ほそぼそめぐる風のみち、

苔蒸す塔のかなたにて

大野青々みぞれしぬ。



旧五輪街道遠野側



旧五輪街道奥州側



【五輪峠の歴史】

慶長年間 阿曽沼氏と南部氏の戦い ○<旧五輪街道入口>

寛永年間

葛西大崎一揆で葛西氏によって攻められた時、戦死した父の菩提を 弔うために**上野氏の子息日向が五輪塔を建立**(江刺郡誌より)

藩政時代

- ・伊達と南部の藩境で、「**人返し**」が行われた。(他藩に逃亡した罪 人引き渡しの場)
 - ・藩境塚は釜石の唐丹から金ヶ崎の駒ケ岳まで今尚連なっている。
- ・現五輪塔はおそらく3代目で、文化年間に覚間沢の多々良という 人が祖先供養のために建立したものと思われる。

明治元年

・澤邊琢磨(坂本龍馬の従兄弟)がロシア正教布教に五輪峠を越え江 戸に向かう。石巻で捕らえられ、函館に護送される途中人首の番所 で役人に所有するバイブルのことを問われ、キリスト教を説く。

39 年

河東碧梧桐(高浜虚子と共に正岡子規の高弟)は子規没後俳句の革新

運動のため全国行脚。その途中人首を訪れ、 「人首と書いて何と読む寒さかな」の句を残す。

句碑は館山公園にある。

大正6年

宮沢賢治が江刺郡からの地質調査の依頼で、 五輪峠を訪れている。

大正9年 『遠野物語』の柳田國男が新田村長を訪れ、五輪峠を越え遠野へ 『遠野物語』の原形を伝えた日本のグリム佐々木喜善が「江刺郡昔 11年 話」(大正 11 年 8 月刊行)をまとめる前に、五輪峠を越え江刺を訪 ね歩き、『江刺を歩き』にまとめる。

宮沢賢治が生徒と釜石線「鱒沢駅」で下車し、鮎貝~切伏を経て、 13 年 五輪峠を越え、2度目の江刺来訪。この時の作品が第二詩集『春と 修羅』に収められた「五輪峠」「丘陵地を過ぎる」「人首町」「晴天 恣意」である。人首の「菊慶旅館」に一泊し、次の日水沢に向かい 「水沢緯度観測所」を訪ねている。この年「銀河鉄道の夜」の執筆 が始まったと言われている。「双子の星」

現五輪街道が開通。県道 174 号小友米里線 昭和 32 年

<江刺~遠野間のバス 2 往復 数年で廃止>

宮沢賢治ゆかりの「イーハトーヴ風景地」のとして国の名勝に指定 平成 17 年

平成22年 旧五輪街道整備





作った時の残材でできたもの。

平成23年 旧五輪街道整備 大内沢地区民の応援に多謝! 階段完成

















令和2年4月 五輪峠階段復活 大内喜三氏が栗材を提供してくれた。











写真右は昭和27年に先生に誘われて、五輪峠に行った時のもの。峠には牧場の馬が逃げないように土塁が作られ、出入り口には木の柵があった。

また、その当時五輪峠は野鳥の「ひわ」が峠を渡るため、鳥もちで捕獲する格好の峠で、年に一度位焼いて食べさせてもらったことを覚えている。自分としてはイスカの方が大きく、肉の部分も多くうまいと思った。今は鳥獣保護のためそんなことは出来ないが。

当時現県道はなく、土手に五輪塔の石が散らばっていて、丸い石が不思議で記憶に残っている。 今の塔のより小さいあの丸い石はどこに行ったのだろう。

その5年位前には母と旧五輪街道を越え、鱒沢 駅から当時カラス列車と呼ばれていた汽車に乗り、釜石に行ったことを覚えている。 当時はトンネルの中に入ると煙のため皆の顔が墨で黒くなったので、カラス列車と 呼ばれていた。この写真は最近亡くなった同級生がリプリントして3年前にもって

来てくれた大切な思い出の写真だ。



佐伯氏の案内で賢治の足跡を歩いた。



昭和期の五輪塔

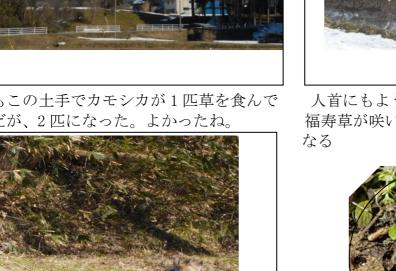




「白鳥の泉」ならぬ「白鳥の田んぼ」 北帰行を控え、白鳥たちは落ち穂を求めて田んぼに。 泥パックも兼ねてるのかね。きれいきれいにして故郷へ帰ってください。



いつもこの土手でカモシカが1匹草を食んで いるのだが、2匹になった。よかったね。



人首にもようやく春がやってきた。土手に 福寿草が咲いた。黄金色だ!なぜか心が豊かに



米里保育園の佐藤園長先生から「屋根の下まで雪が積もり、部屋が暗くて困っている」との話。 米里保育園は4月から閉園し、園児は玉里にある保育園に行くことになるらしい。寂しいことだ。 2009 年から毎年保育園北側に積もった雪を集め、園庭に雪だるまやすべり台をプレゼントしてき た。しかし、保育園最後の年だけに雪だるま等をプレゼントしたかったが、除雪だけのボランテイ アになった。それでも「明るくなってうれしい」と喜んでくれた。資金なしでの取り組みだったが、 10 人の人が参加してくれた。無償で機械を提供してくれる人もあり、とてもうれしく、ありがた かった。やはり機械は強力だ。しかし、助け合う心はもっと強力でうれしく、ありがたかった。





